

福島第一原子力発電所 多核種除去設備等処理水に関する地質調査（ボーリング調査）の結果について

参 考 資 料
2022年2月3日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

- 多核種除去設備等処理水に関する取水・放水設備は、港湾外から海水を取水し、放水トンネル(約1000m)を經由して放出する案で検討を進めています。
- 同設備の詳細検討や工事の安全確保に向けて、地質データの把握が必要となる海域で、2021年11月に「磁気探査調査」を実施し、調査対象エリアの海底に支障物がないことを確認しました。その後、2021年12月に「地質調査(ボーリング調査)」を実施しました。
- 地質調査対象エリアは、放水トンネルの構築を予定している港湾外の3地点で（放水立抗から①約1000m ②約700m ③約400mの地点）、地質サンプルの採取および地盤の固さを測定する試験を順次実施しました。
〔2021年12月27日までにお知らせ済み〕

- 今回得た地質サンプルのデータから、放水トンネルの構築を予定している地点には十分に厚く硬い岩盤（泥岩または砂岩）が存在すること、また、放水トンネル出口（約1000m地点）が岩盤であることを確認しました。
- 今回の調査結果から、地質条件として、放水トンネルの設計及び施工検討に必要な基礎データを確認しました。



● : ボーリング位置

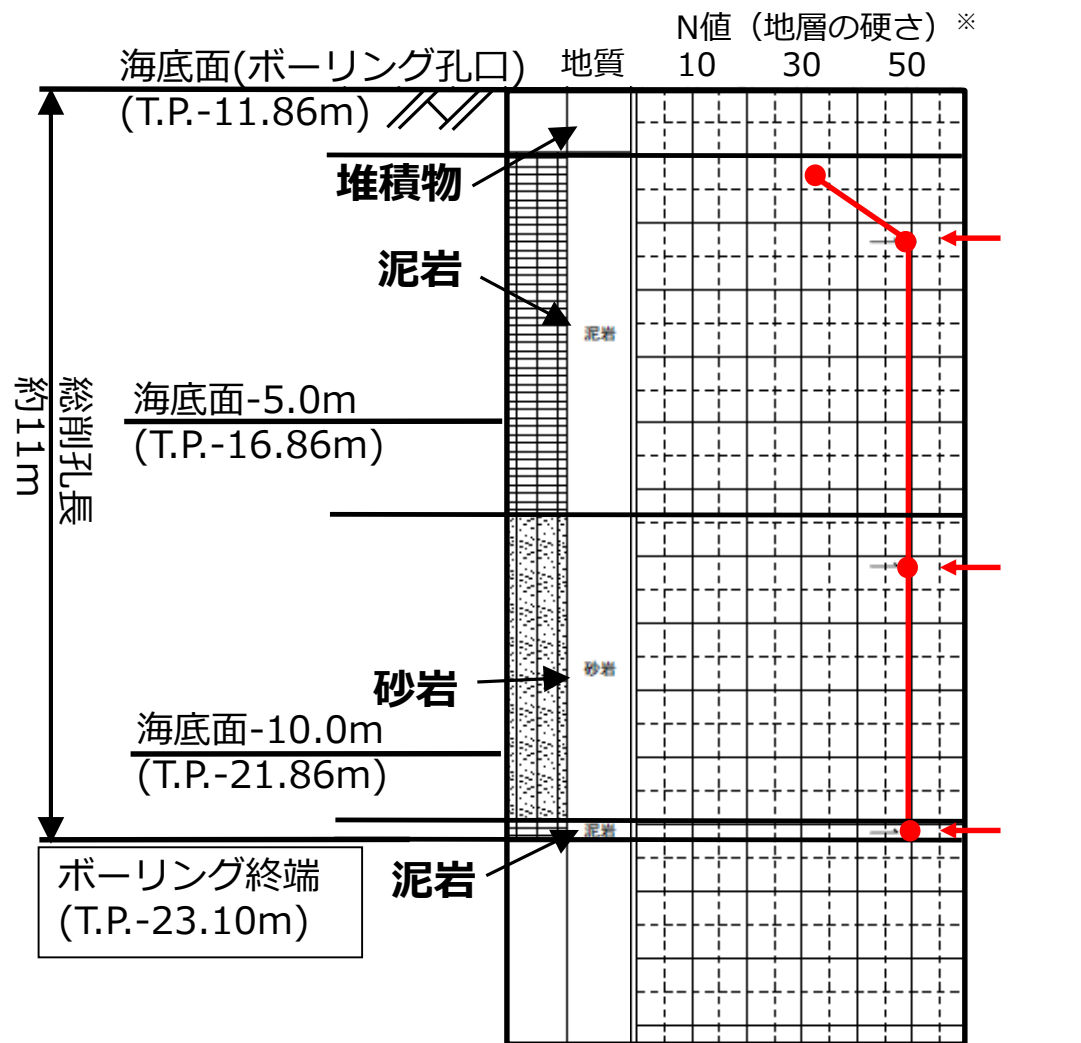
日常的に漁業が行われていないエリア ※

東西1.5km 南北3.5km

※共同漁業権非設定区域

■ 地質調査データ①は右図の通りです。

- ボーリング孔口(T.P.-11.86m)からボーリング終端(T.P.-23.10m)までの総削孔長約11mを調査しました。
- 地質調査データ①の地点は、放水口設置位置および放水トンネル到達地点であり、十分に硬く厚い岩盤内(砂岩、泥岩)に設置できることを確認しました。



※N値について

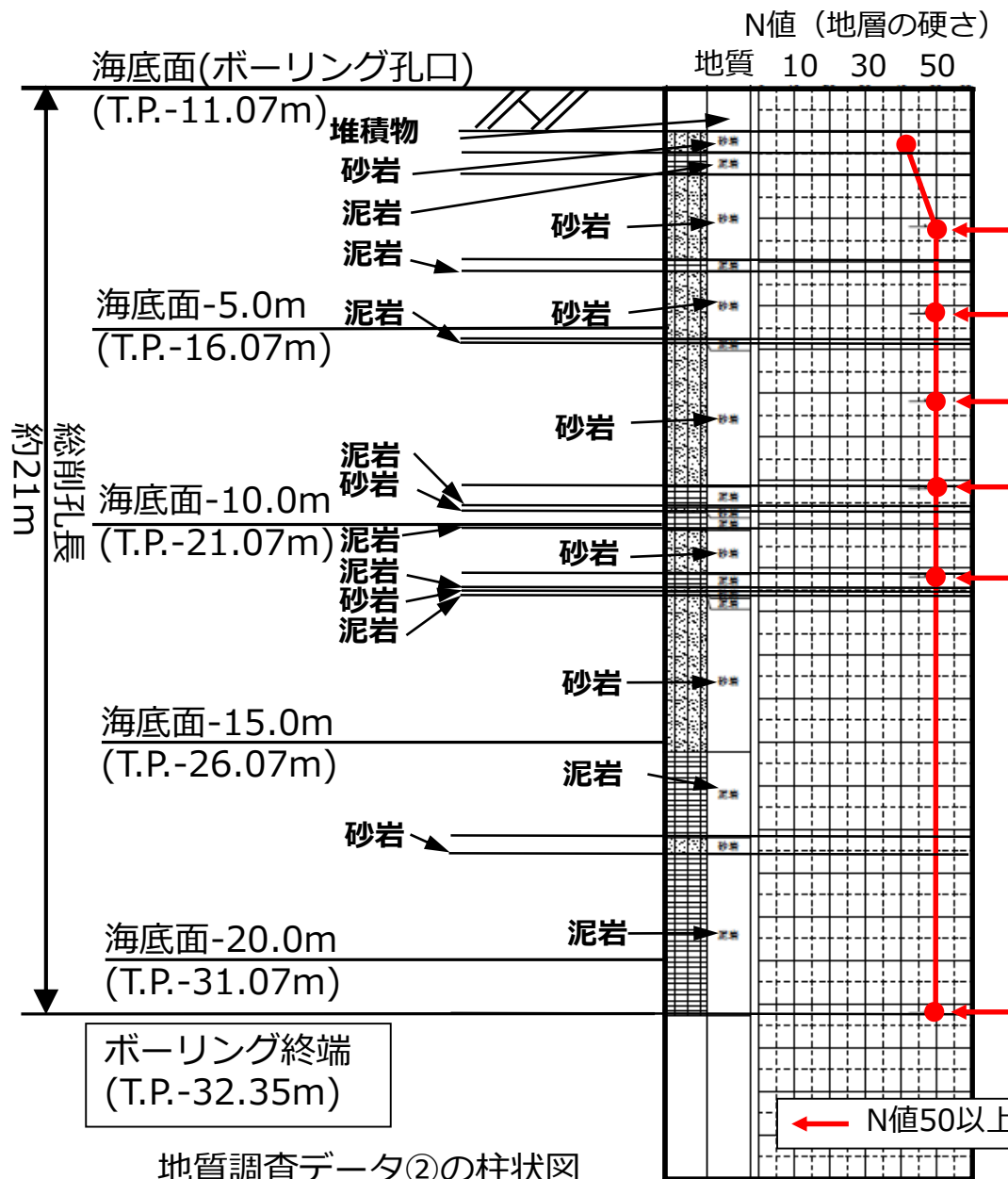
- 標準貫入試験 (JIS A 1219) によって求められるもので、地層の硬軟を示す値。
- この値が大きくなるほど地層は硬い。関東ローム層のN値は3~5程度、軟弱な沖積粘性土は0~2程度である。中高層建築物の基礎は、一般にN値30~50以上を支持層としている。

地質調査データ①の柱状図

地質調査データ②（沖合約700m）

■ 地質調査データ②は右図の通りです。

- ボーリング孔口(T.P.-11.07m)からボーリング終端(T.P.-32.35m)までの総削孔長約21mを調査しました。
- 放水トンネルの構築を予定している地質調査データ②の地点は、十分に厚く硬い岩盤（泥岩または砂岩）が存在することを確認しました。

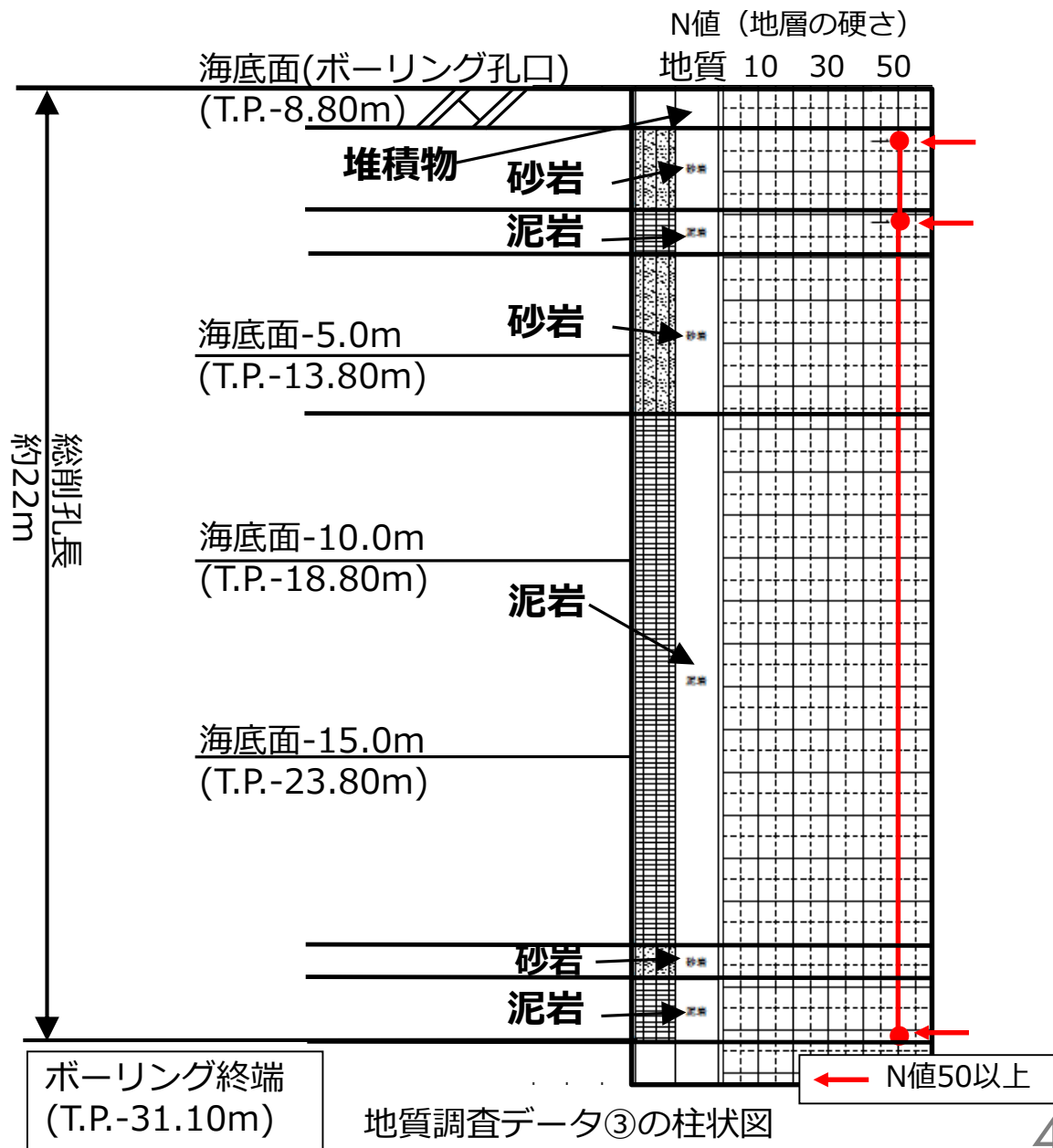


地質調査データ②の柱状図

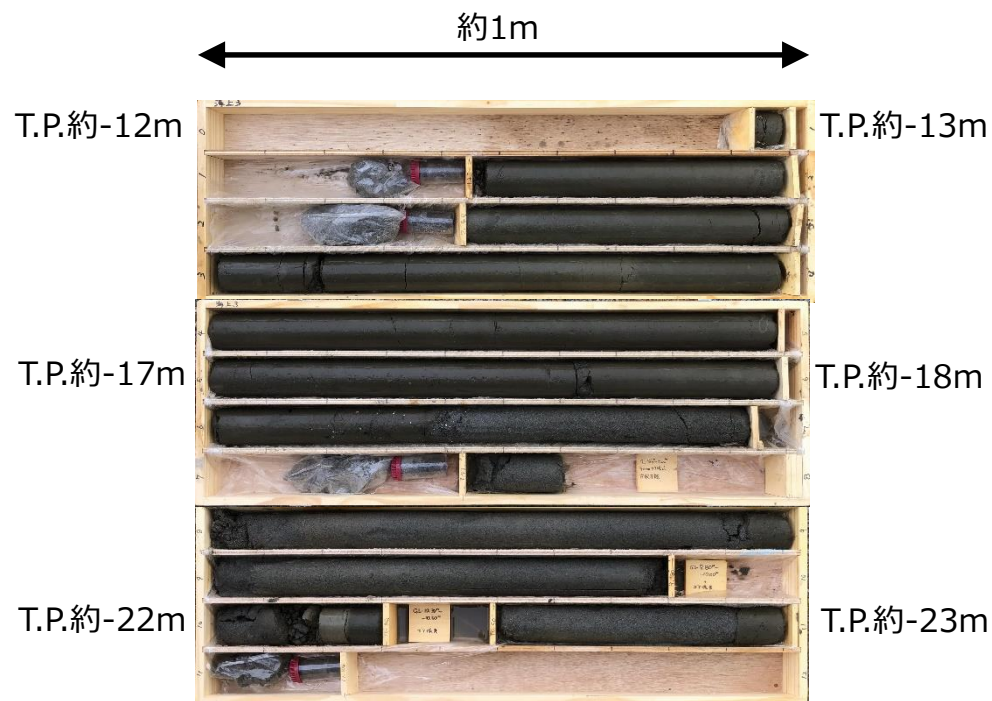
地質調査データ③（沖合約400m）

■ 地質調査データ③は右図の通りです。

- ボーリング孔口(T.P.-8.80m)からボーリング終端(T.P.-31.10m)までの総削孔長約22mを調査しました。
- 放水トンネルの構築を予定している地質調査データ③の地点は、十分に厚く硬い岩盤（泥岩または砂岩）が存在することを確認しました。

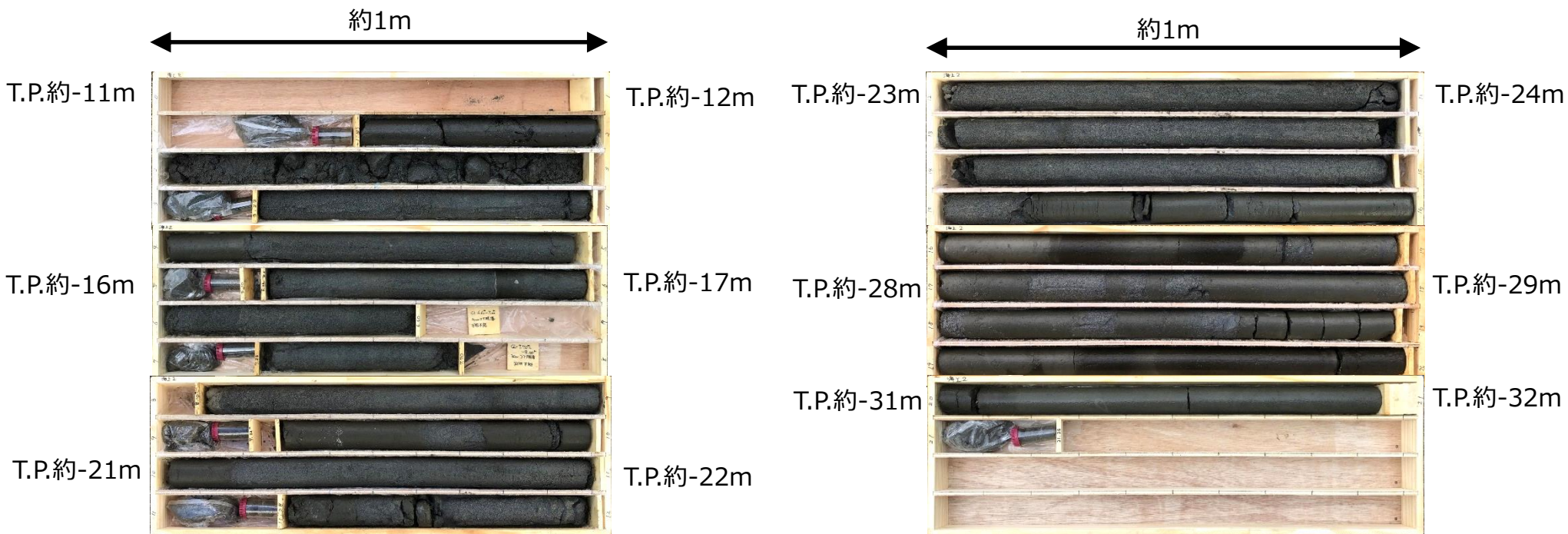


地質調査データ③の柱状図



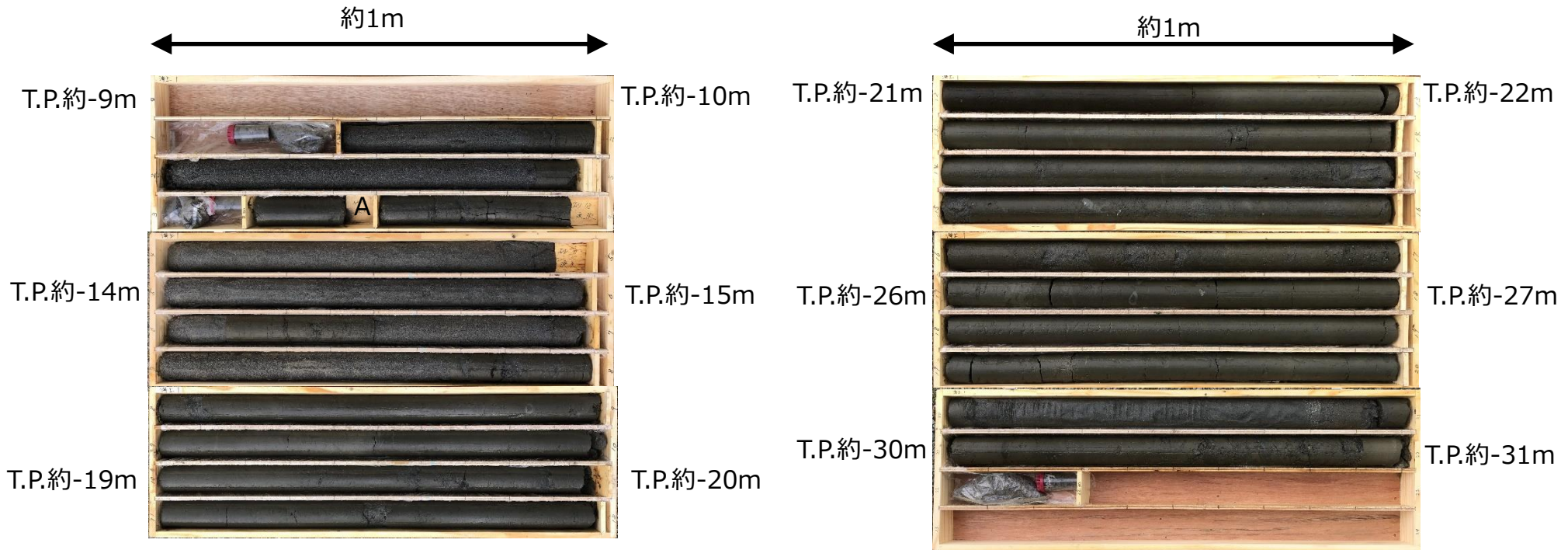
地質調査データ①のボーリングコア標本

【参考】地質調査データ② ボーリングコア（沖合約700m）



地質調査データ②のボーリングコア標本

【参考】地質調査データ③ ボーリングコア（沖合約400m）



地質調査データ③のボーリングコア標本

